

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No207

2023年10月29日(日)14:00-16:30(ウェビナー形式)

河合塾主催10年トランジション調査の出版記念イベントのご案内
「学校と社会をどこまでつなげるか」を考える

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

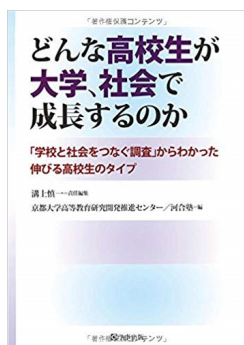
【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

学校と社会をつなぐ調査 通称「10年トランジション調査」

- 2013年時 約400校、45,000人の高2生が参加
- 2018年時（大学4年生） 2,742名
（男性996名、女性1,731名）が継続的に調査参加



溝上慎一（責任編集）京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾（編）(2015). **どんな高校生が大学、社会で成長するのかー「学校と社会をつなぐ調査」からわかった伸びる高校生のタイプ** 学事出版



溝上慎一監修 京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾（編）（2018年2月）
『高大接続の本質ー「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題』 学事出版

The screenshot shows the website for the 'School and Society Connection Survey'. The header includes the Keio Group logo and navigation menus for 'About the Keio Group', 'Advanced Education', 'Education Support', 'Education Research Activities', 'Social Engagement (SR)', and 'Recruitment'. The main content area features a large banner with the survey title and a sub-header: '～現代社会を力強く生き抜くためには、何が必要なのか～'. Below the banner are sections for 'Survey Overview', 'Survey Results', and 'Survey Period'. The 'Survey Overview' section contains introductory text about the survey's purpose and methodology, mentioning its 10-year history and the participation of approximately 60,000 high school students.

<https://www.keinet.ne.jp/teacher/research/transition/>



「高校・大学・社会 学びと成長のリアル」刊行記念イベント

「学校と社会をどこまでつなげるか」

～10年調査から考える課題～

**参加無料
要申込** 2023年10月29日(日) 14:00～16:30
Zoomウェビナー形式
対象：中学校・高等学校等の教員、大学教職員、企業の人材育成担当者など

どんな高校生が大学、社会で学び・成長していくのか。
2013年から約10年間にわたって、このテーマで生徒・学生の成長・変化を記録してきた「学校と社会をつなぐ調査」ですが、10年の間に、学びを取り巻く環境は、学校内外で大きく変化しています。

その変化も踏まえて、どこまで学校と社会をつなぐのか、どうやってつなぐのか、その在り方について、さまざまな立場の方から報告・コメントをいただき、議論を深める標記のオンラインイベントを開催いたします。

プログラム

14:00～  学校・社会をつなげた10年調査の成果とつながらない部分の提案
～未来の学校教育を考える～
溝上 慎一氏 (学校法人桐蔭学園 理事長 / 桐蔭横浜大学 教授)

14:20～  広がる生徒の学びの場と学校の課題
五十橋 浩二氏 (経済産業省商務・サービスグループサービス政策課 教育産業室長)

15:00～  生徒主体の学びを実現するための学校・教員のあり方
内堀 繁利氏 (長野県教育委員会 教育長)

15:30～  パネルディスカッション
溝上 慎一氏 × 五十橋 浩二氏 × 内堀 繁利氏
ファシリテーター：濱中 淳子氏

※プログラムは予定です。状況により内容や進行を一部変更する場合があります。

申込方法

下記アドレス、または右記 二次元バーコードよりお申し込みください。
<https://www.keinet.ne.jp/teacher/research/transition/> 

※定員：300名 / 事前申込制。定員に達し次第、締切させていただきます。

・2023年10月29日(日)
・14:00-16:30 ・ウェビナー形式

講演 1 (溝上)

河合塾主催 学校と社会をつなぐ調査 書籍刊行オンラインイベント 講演 2023年10月29日

学校・社会をつなげた10年調査の成果とつながらない部分の提案—未来の学校教育を考える—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp



【略歴】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、教授を経て、2018年に桐蔭学園へ。2019年同理事長、現在に至る。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライドの最後にあるプロフィールをご覧ください

- ① 10年トランジション調査で仕事・社会と繋がった部分の成果
- ② うまく繋がられない教育課題—未来の学校教育

講演 2・3



「広がる生徒の学びの場と学校の課題」

五十棲 浩二（いそずみ・こうじ）

経済産業省商務・サービスグループサービス政策課 教育産業室長

2001年経済産業省入省。資源エネルギー庁、内閣府、環境省などを経て、2014年官民交流制度により中高一貫校に出向。2017年に経済産業省政策審議室にて教育産業室の立ち上げに関わったのち、同省を退職。中高一貫校勤務（校長補佐）、私学修学支援センターの立ち上げ、慶應義塾大学特任講師等を経て、2022年7月より経済産業省教育産業室長。



「生徒主体の学びを実現するための学校・教員のあり方」

内堀 繁利（うちぼり・しげとし）

長野県教育委員会 教育長

長野県等で高等学校教諭、教育委員会事務局、軽井沢高等学校長、上田高等学校長などを経て、2018年定年退職。長野県で高校改革推進役として学びの改革を中心に高校改革を推進。2022年より現職。文部科学省中央教育審議会「新しい時代の高等学校教育の在り方WG」、「通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究協力者会議」、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業・企画評価会議」のほか、「全国高校生マイプロジェクトアワード」審査員等も務める。

パネルディスカッション

【ファシリテーター】

議論したい主なテーマ

「学校の可能性と限界について」



濱中 淳子（はまなか・じゅんこ）

早稲田大学教育・総合科学学術院 教授

東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士（教育学）。専門は、教育社会学、高等教育論。主な著書に、『「超」進学校 開成・灘の卒業生』（ちくま新書、2016年）など。いわゆる進学校に着目し、卒業生調査を用い高校時代の経験とキャリアの関連性を分析する他、『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか』（共著、ミネルヴァ書房、2019年）では、高校生の学習行動を進学校や部活動との関連から分析・発表している。

【参考】

- (1) 知識・技能から資質・能力へ
- (2) 探究的な学習が脇役から主役に近いところへ
- (3) 学校教員の専門的力量を超えた高度なカリキュラムが求められている
- (4) 新しい育成課題が学校教育の収容能力を軽く超えている
- (5) 「最先端」の知識・技能がオンライン上ですさまじく発信される現代社会

文

献

・溝上慎一（2023）. インサイドアウト思考—創造的思考から個性的な学習・ライフの構築へ— 東信堂



濱中 淳子 (はまなか・じゅんこ)
早稲田大学教育・総合科学学術院 教授

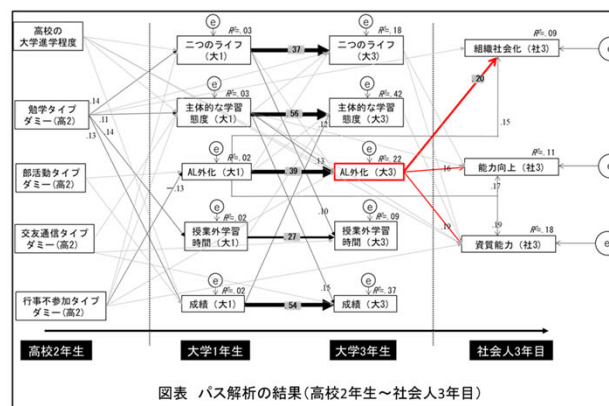
東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士(教育学)。専門は、教育社会学、高等教育論。主な著書に、『「超」進学校 開成・灘の卒業生』(ちくま新書、2016年)など。いわゆる進学校に着目し、卒業生調査を用い高校時代の経験とキャリアの関連性を分析する他、『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか』(共著、ミネルヴァ書房、2019年)では、高校生の学習行動を進学校や部活動との関連から分析・発表している。



濱中淳子 (2013) 『検証・学歴の効用』 (勁草書房)

高校—大学—仕事・社会へどのようにトランジションするか？

- 大学3年生→社会人3年目にかけて **AL外化**が影響を及ぼしている。
- **間接効果**の積み重ね
 - ✓ 高校2年生→大学1年生
 - ✓ 大学1年生→大学3年生
 - ✓ 大学3年生→社会人3年目



溝上の当日のスライド(一部)

ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。
E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

